

# 第1回 「ふかぼりMUSEUMS+G」 研究成果発表会

## 目的

知事、副知事と県立の博物館、図書館、文化財保護・活用室が一堂に会した、オープンな研究成果発表の場「ふかぼりMUSEUMS+G」を設けることにより、学芸員・文化財保護主事の研究成果の情報発信力を高めるとともに、佐賀の歴史文化研究の促進を図る。

# 内容

開催日時:令和6年3月14日(木)14:00~15:00

開催場所:プレゼンテーションルーム(新館4階)

参 集:知事、南里副知事、落合副知事、各県立博物館長・県立図書館長 等

発表内容:①「肥前磁器における銘(めい)について」九州陶磁文化館 主査 みやき たかふみ 宮木貴史

②「伊藤若冲の心の師〈売茶翁〉—佐賀出身・超俗超凡の高僧—」  
博物館・美術館 主事 あんどう けいこ 安東慶子

③「肥前名護屋城草庵茶室の建物復元について」  
名護屋城博物館 主査 おおはし まさひろ 大橋正浩

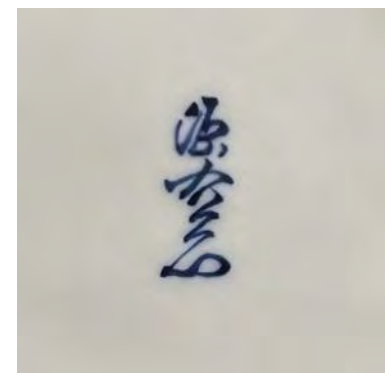
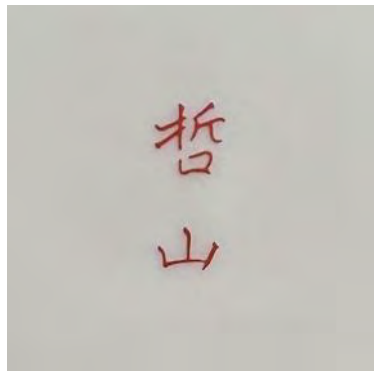
④「太古のブランド石材:伊万里腰岳の黒曜石と多久鬼の鼻山の安山岩について」  
文化財保護・活用室 主任主査 おちよしかず 越知睦和

# 肥前磁器における 銘（めい）について

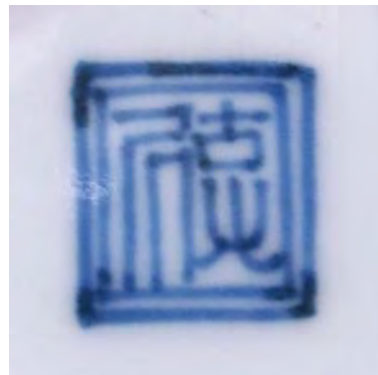
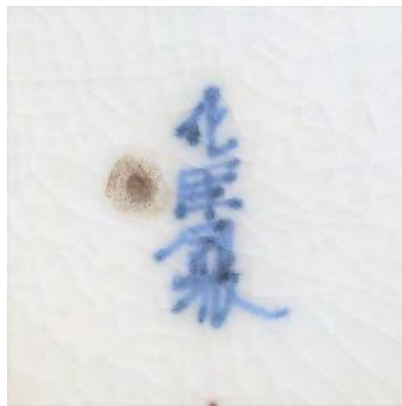
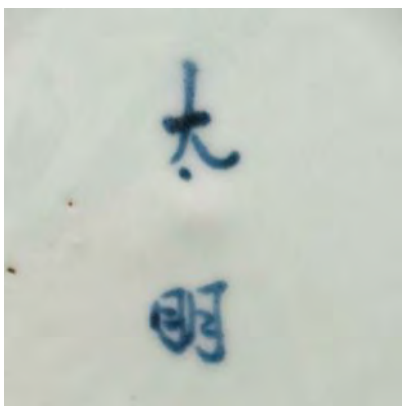
九州陶磁文化館  
主査

宮木貴史





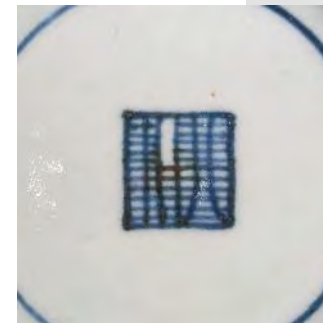
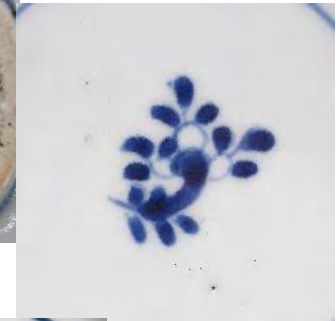
現代は器の裏に窯印が入っている



★やきものの裏に書かれた**文字**や**マーク**

★さまざまな種類がある!

- ▶ **中国の年号**
- ▶ **おめでたい言葉**
- ▶ 記号やマーク
- ▶ 意味不明な文字…etc



★時代によって違う!

- ▶ 福の字が変化していく
- ▶ 主要な銘が移り変わる…etc

九州陶磁文化館の収蔵品にはどんな銘があるのか

### ★柴澤コレクション

432件のうち189件に銘あり

58種類の銘を確認



### ★柴田夫妻コレクション

4,332件のうち1,812件に銘あり

205種類の銘を確認



▶ 展覧会図録や研究紀要に収録





中国

1600~1640年代



日本 有田

1660~1670年代



中国

「大明成化年製」  
偉大な明国の成化  
(=1464~1487年)  
という年号の時に製  
作したという意味

銘=デザインの一つ



中国

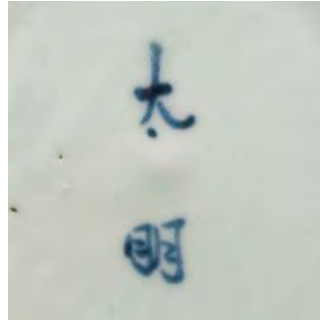
有田



## アレンジ銘



大明成化年製



大明



大明成



化年製



大清乾隆年製



清



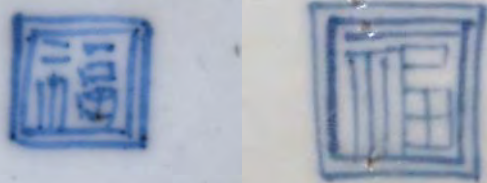
乾



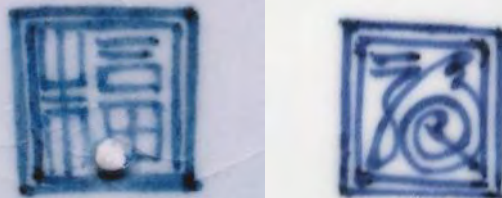
隆



17世紀前半



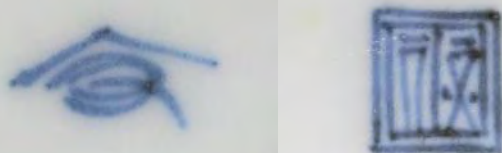
17世紀後半



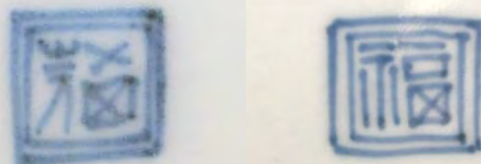
18世紀前半



18世紀後半

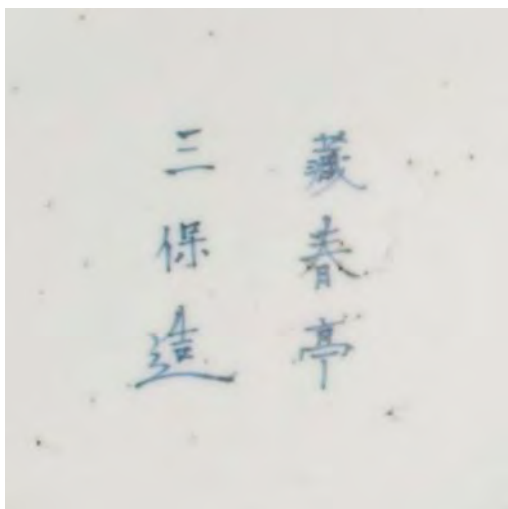


19世紀



中国磁器から模倣した「福」字銘に始まり、17世紀後半に確立した「渦福」が18世紀には大流行する

銘を見ればやきものの時代がわかる!



蔵春亭三保造



肥礫山信甫造

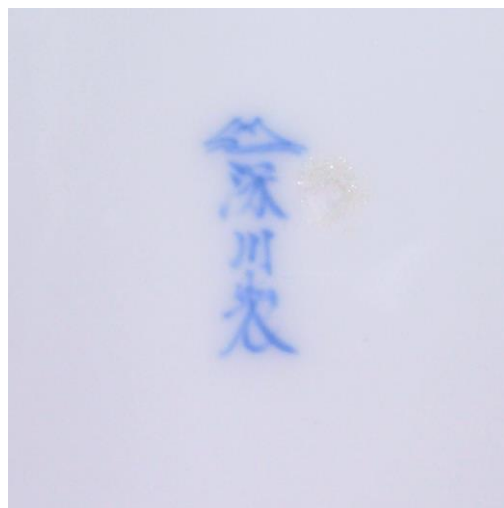


肥礫山深川製

久富家の「蔵春亭三保造」を初め、田代家の「肥礫山信甫造」等幕末から明治の豪商たちがブランド銘を使用する



蘭のマーク



富士山に流水マーク+深川製

企画展

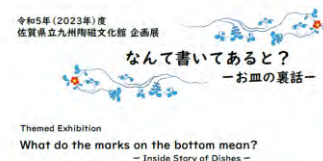
### なんて書いてあると?—お皿の裏話—

令和5(2023)年9月30日(土)~11月26日(日)

★初心者でもわかりやすい

★銘からやきものを知っていく楽しさ

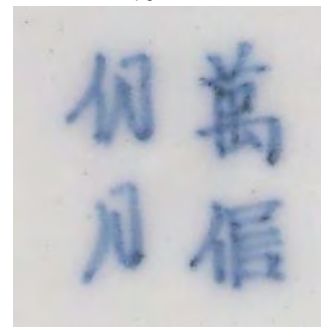
★不明な文字の謎を解いていく楽しさ



中国



有田



攸 萬  
同 福

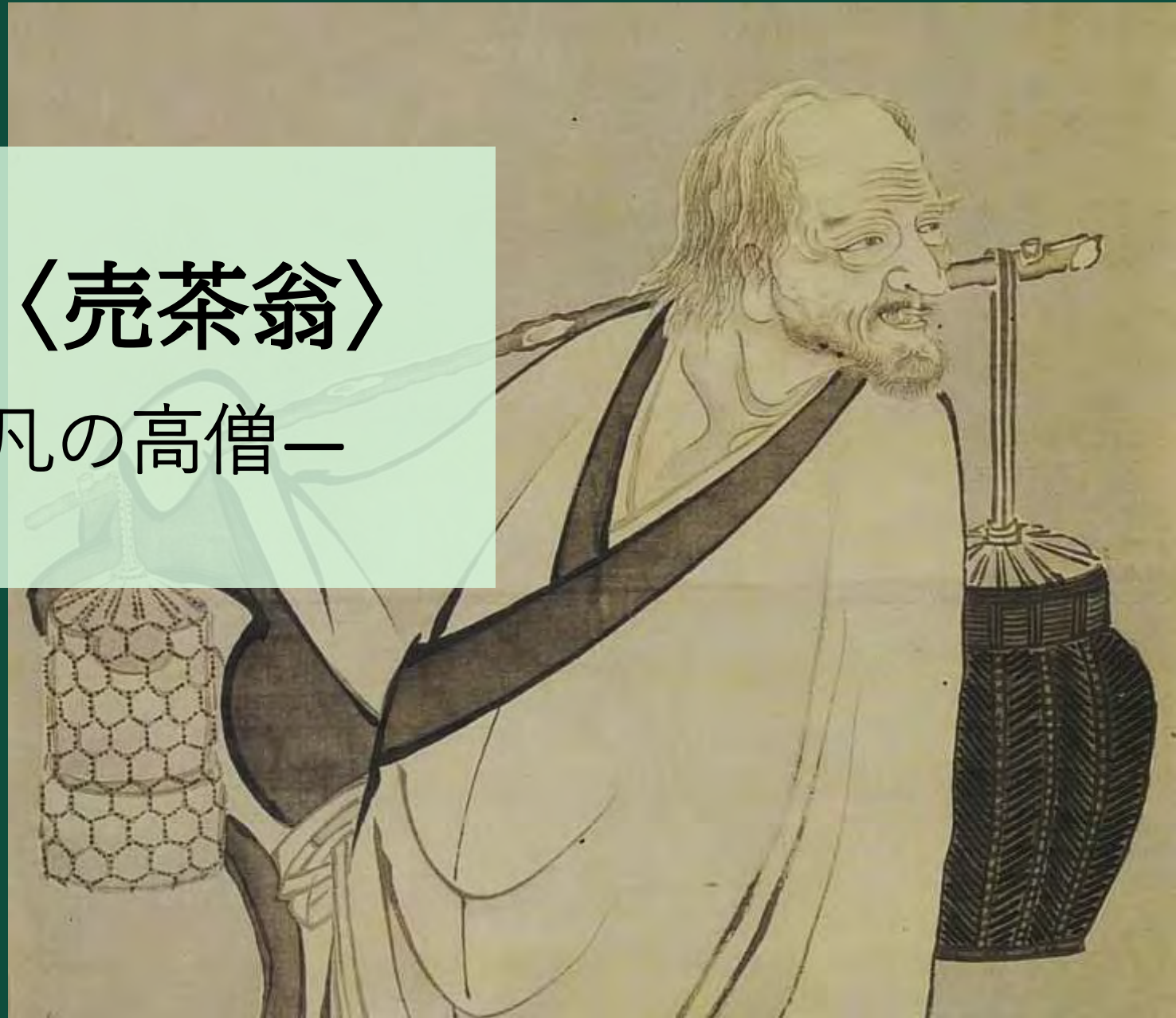
- ★肥前磁器銘の集成、分類整理を継続  
→肥前磁器銘のデータベース
- ★他産地や中国磁器の銘も集成  
→肥前磁器銘の特徴を明確に
- ★画像検索で銘を判別できるアプリ
- ★佐賀県民は裏をみれば古陶磁の年代がわかる!?

ご清聴ありがとうございました

# 伊藤若冲の心の師 〈売茶翁〉

—佐賀出身・超俗超凡の高僧—

佐賀県立博物館  
佐賀県立美術館  
安東慶子





じゃくちゅう

# 若冲といえは

## 《樹花鳥獸図屏風》

18世紀、6曲1双、静岡県立美術館蔵  
(『若冲と京の画家たち』より)



どうしょくさいえ  
国宝 《動植綵絵》 と ばいさおう  
翁茶売

伊藤若冲《動植綵絵》30幅、宮内庁三の丸尚蔵館蔵、  
(『生誕300年誕生 若冲』2016年より)



どうしょくさいえ  
国宝 《動植綵絵》  
ばいさおう  
と売茶翁

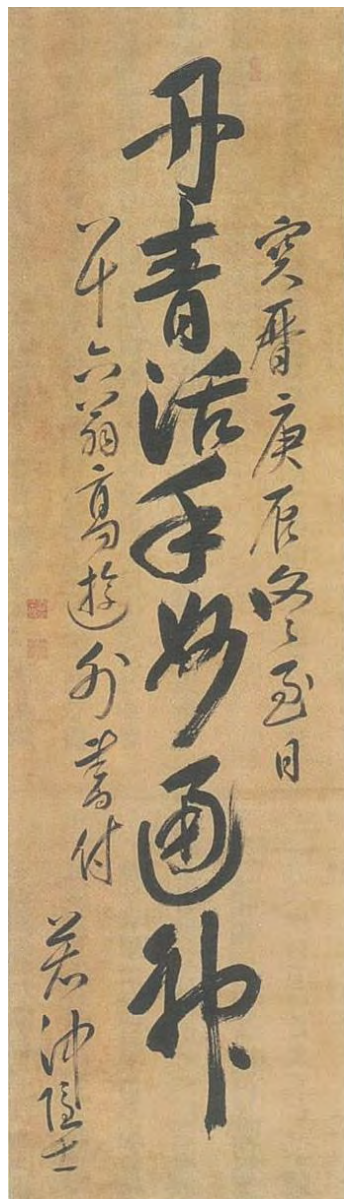
丹青活手妙通神

「宝曆庚辰冬極月

八十六翁高遊外書付

若冲隠士」

売茶翁筆《一行書》  
宮内庁三の丸尚蔵館蔵



「丹青活手  
妙通神」



動植綵絵《池辺群虫図》（印の箇所）  
宮内庁三の丸尚蔵館蔵

# 国宝 《動植綵繪》 と売茶翁



《百犬図》  
個人蔵/京都国立博物館蔵  
絹本着色、寛政11年（1799）、  
（東日本大震災復興祈念「伊藤  
若冲展」福島県立美術館より）



動植綵繪《池辺群虫図》  
三の丸尚蔵館蔵、絹本着色、  
明和2年（1765年）



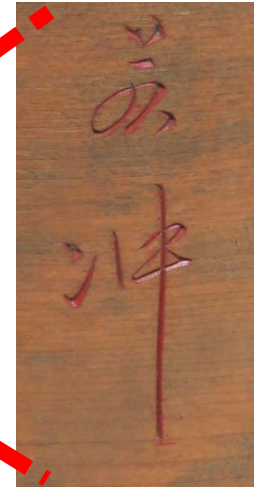
動植綵繪《池蓮遊魚図》  
三の丸尚蔵館蔵、絹本着色、  
明和2年（1765年）以前



動植綵繪《牡丹小禽図》  
三の丸尚蔵館蔵、絹本着色、  
明和2年（1765年）以前

# 若冲が受けた売茶翁の影響

● 「若冲」は“**売茶翁サークル**”で共有された言葉



→ これを画号とした。

「注子」売茶翁愛用/模造品、19世紀個人蔵（佐賀県立博物館寄託）

NHK放送「ライジング若冲」  
2021年初回放送（NHKスクエアより）

役.. 伊藤若冲

役.. 大典顕常

役.. 池大雅

役.. 池玉瀾

役.. 丸山応挙

役.. 売茶翁

ライジング若冲

Who makes the Genius?

天才かく覚醒せり

総合BS4K  
二〇二一年一月二日(土)  
夜七時二十分  
BSプレミアム 一月十六日(土) 夜九時

NHK

「茶の湯の中興の祖は千利休、  
煎茶の中興の祖は売茶翁」

(柳下亭嵐翠著『煎茶早指南』参考)

# 売茶翁 (1675年～1763年)

延宝3年 (1675) 佐賀市蓮池に生まれる。

貞享3年 (1686) 11歳、黄檗禅龍津寺で出家、僧名を月海元昭。

享保9年 (1724) 50歳、龍津寺を出て「一生漂泊」。

享保20年 (1735) 61歳頃に、**京都鴨川の畔で茶店「通仙亭」を構え、茶を売るようになる。**

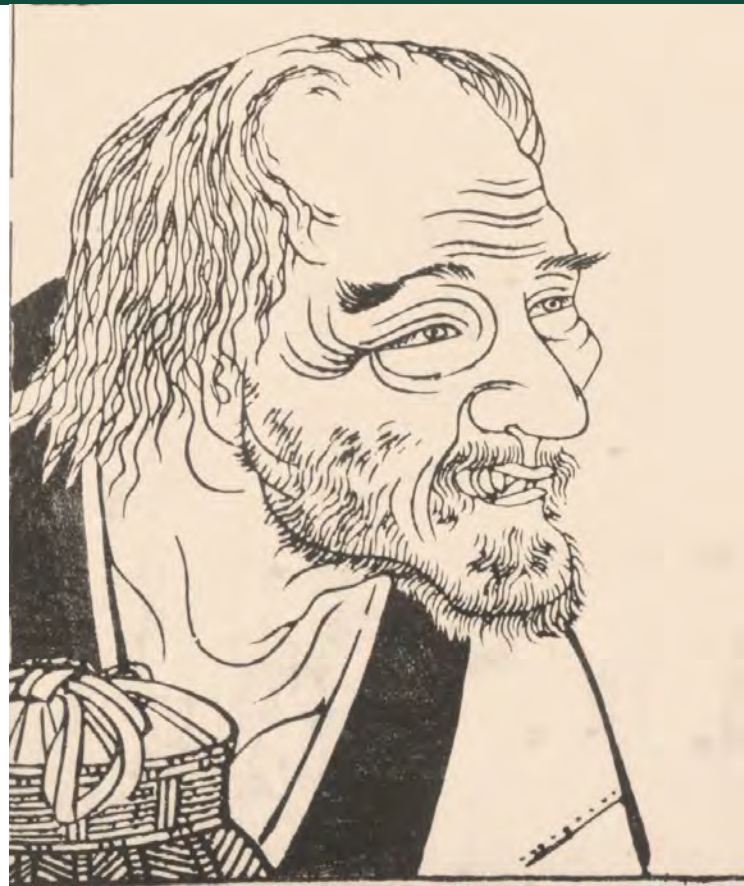
他、景勝地 (三十三間堂・東福寺・高台寺等) で茶を売る。

寛保2年 (1742) 68歳で還俗。姓は高、名は遊外と名乗る。

宝暦5年 (1755) 81歳で、炉龕「仙窠」を焼却する。

宝暦10年 (1760) 86歳の時、《動植綵絵》に一行書「丹青活手妙通神」を若冲に贈る。

宝暦13年 (1763) 89歳の時、『売茶翁偈語』刊行。京都で没す。



★煎茶の中興の祖

★身分の枠を超えた僧侶であったが、あえて商いを行う。

# 若冲が描いた売茶翁の肖像画

(東日本大震災復興祈念「伊藤若冲展」福島県立美術館より)



《売茶翁像》  
大典頭常賛  
個人蔵



《売茶翁像》  
大典頭常賛  
個人蔵



《売茶翁像》  
木村孔陽賛  
個人蔵



《売茶翁像》  
個人蔵



《売茶翁像》  
個人蔵



《売茶翁像》  
売茶翁賛  
個人蔵



# 売茶翁の肖像画を描いた画家

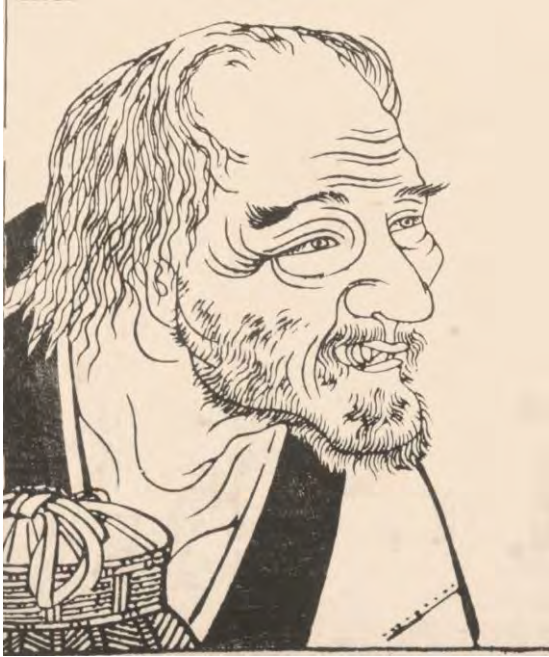
## ・ 売茶翁(1675～1763)生前

- (1) 彭城百川 (1697 - 1752)
- (2) 山科李溪 (1702 - 1747)
- (3) 伊藤若冲 (1716 - 1800)
- (4) 池大雅 (1723 - 1776)
- (5) 三熊思孝 (1730 - 1794)
- (6) 円山応挙 (1733 - 1795)

## ・ 売茶翁没後 (1763～)

- (7) 浦上玉堂賛 (1745 - 1820)
- (8) 谷文晁 (1763 - 1841)
- (9) 張月樵 (1765 - 1832)
- (10) 田能村竹田 (1777 - 1835)
- ★ (11) 比喜多宇隆 (生没年不明、19世紀)
- (12) 田中鶴翁 (1782 - 1848)
- (13) 渡辺華山 (写しのみ現存、1793 - 1841)
- (14) 田能村直入 (1814 - 1907)
- (15) 富岡鉄斎 (1837 - 1924)
- (16) 祖門衍梁賛 (不明 - 1804)
- (17) 坂田習軒 (1869 - 不明)
- (18) 若狭物外 (1887 - 1957)
- (19) 田能村直雙 (生没年不明、昭和期)

# 売茶翁没後の肖像画



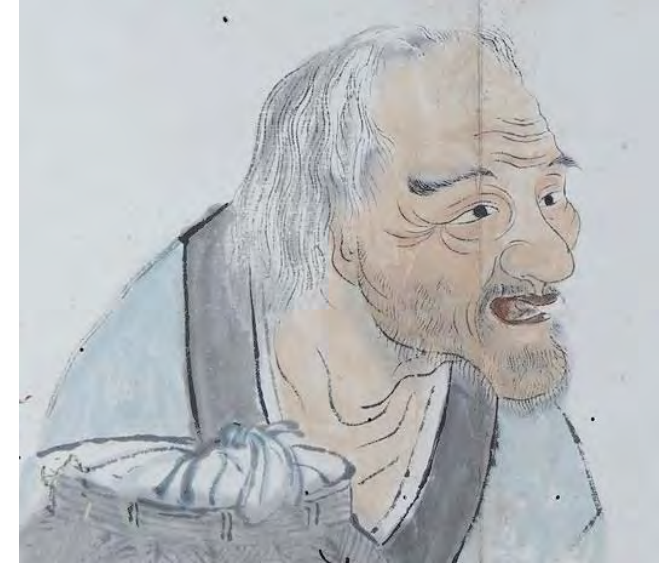
『売茶翁偈語』、  
NPO法人高遊外壳茶翁顕彰  
会蔵



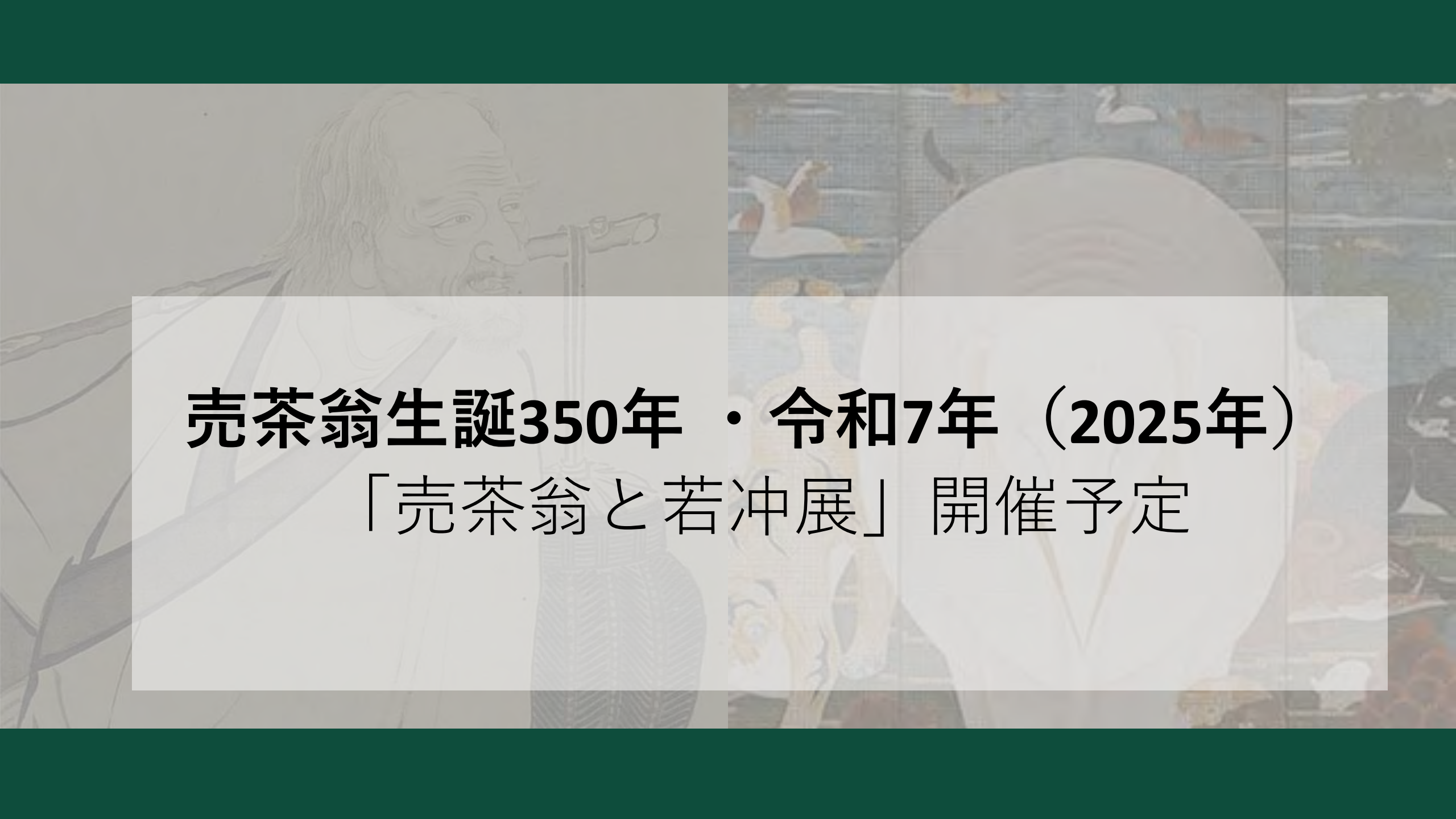
作者不詳/浦上玉堂賛《売茶  
翁像図賛》岡山県立美術館蔵、  
重要美術品



田能村竹田筆《売茶翁  
像》個人蔵、部分



富岡鉄斎《売茶翁遺品》  
部分、館蔵



**売茶翁生誕350年 ・ 令和7年（2025年）**

**「売茶翁と若冲展」開催予定**

第1回「ふかぼり MUSEUMS + G」



肥前名護屋城上山里丸茶室（草庵茶室）  
の建物復元について

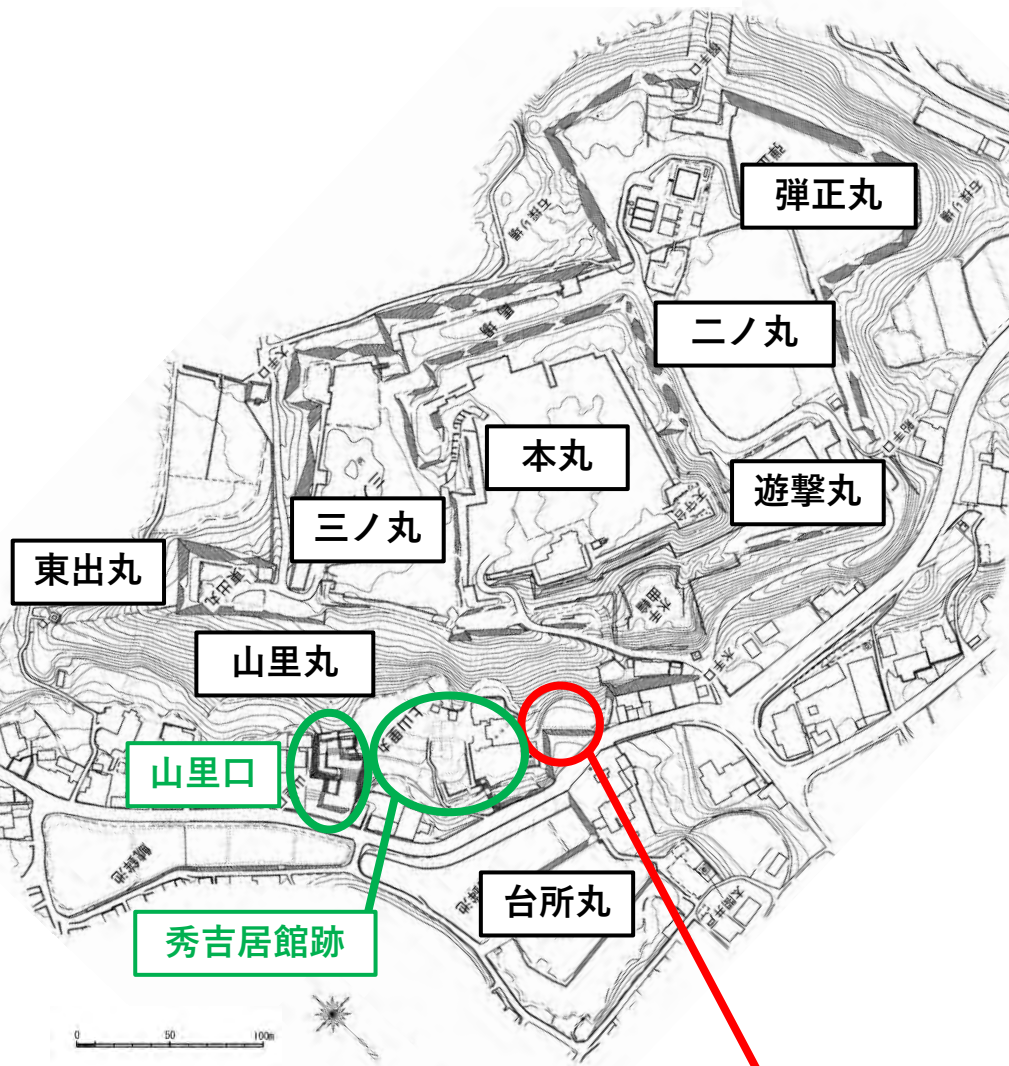
令和6年3月14日

名護屋城博物館

学芸課調査研究・史跡活用担当

大橋 正浩

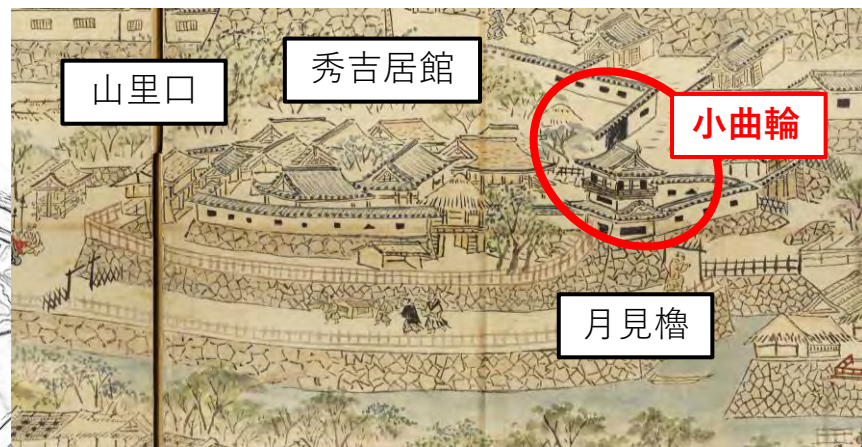
# 1. 既往の成果と課題



名護屋城跡全体図

## 小曲輪(茶室跡)

- ・ H8～H10に発掘調査
- ・ 掘立柱建物跡, 飛石, 石段, 井戸, 柵列など



『肥前名護屋城図屏風』上山丸部分里



草庵茶室が位置する小曲輪 (北からみる)

# 1. 既往の成果と課題



茶室と周辺の遺構 (東南からみる)

# 1. 既往の成果と課題

『宗湛日記』

- ・ 博多の豪商・茶人である**神屋宗湛**の茶会記
- ・ 大坂城や九州での秀吉に関する茶会などの記録が詳しい

天正二十年(1592)十一月十七日

太閤様ニ 御会 山里ノ御座敷ヒラキナリ  
此御人数ノ事 松浦道可 池田備中殿

宗湛 堀監物 船越五左衛門  
以上五人

外ノ矢蔵マテ寅刻ヨリ罷出夜明テ辰ノ刻ニハイ  
入候ナリ

御座敷四テイ半 柱モ其外ミナ竹ナリ四尺五寸ノ  
床ソノ下ニ道籠アリ二枚障子大ヘラノ方ミナマドニ  
シテ腰ニ大竹ヲヨコニ一ツワタシテ候外ハ柴垣也サイ  
エンアリ 手水石縁ヨリツカイ候ヤウニ上ニヘキメ  
板置テ同イロリ真フチ御釜床ニハ夜雨一軸懸  
テ前ニ長ソロリニ山立花生テ ウス板ニスワル

(省略)

一手水鉢ハ 自然ナル石ノ大ナルヲ内丸切テ  
上ニ大ナルヒシヤク置テ  
一御座敷ノマトノ障子 御詠哥ヲ御自  
筆ニテアソハサレケリ

(省略)

一十七日朝 御会 御飾の事  
床ニ夜雨一軸 前ニ長そろりニ花生て、薄板ニすへて、  
すみおりニ、すてこ御壺 覆金欄 緒紅也、すみより向  
て、御釜おとごぜ 新田肩衝 四方盆ニすへて、ぬり天  
目ニ道具仕入て、土水指せと 水覆 かめのふた 蓋置た  
いこのとう  
右ハ十四日より十七日迄の山里の御数寄御かさり也

『宗湛日記』 一部抜粋

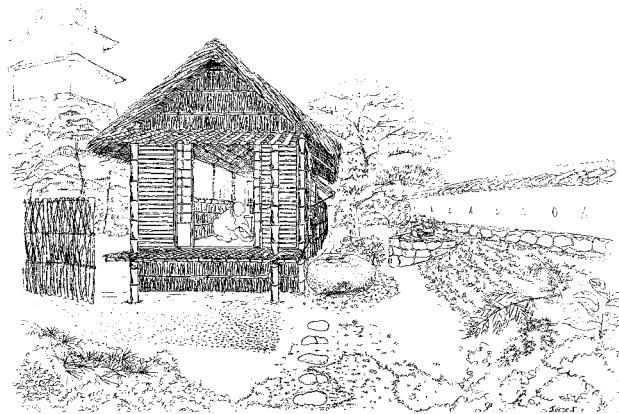
茶室の本質に係わる重要な記載

# 1. 既往の成果と課題

○遺構と「山里ノ御座敷」の共通点

- ①山里丸に位置する四畳半規模の建物
- ②4.5尺（間口1.38m）の床の間
- ③建物に縁側がつく
- ④竹の掘立柱と対応する柱穴

2つは同一の建物  
→秀吉の私的な茶室  
跡として現状唯一  
の遺構



第1案（1998）



第2案（1998）



本丸



上山里丸



前田利家陣



高橋直次陣

『肥前名護屋城図屏風』部分

・ 短期間の利用が前提の**青竹の茶室**を復元。

・ 第1案を基に、『肥前名護屋城図屏風』にみられる**方形造草葺屋根**とし、床高を低く修正。



# 1. 既往の成果と課題

○具体的な復元のために

**復元設計(基本設計) → 実施設計 → 復元建物の制作**

(1) 規模・平面.....遺構

(2) 意匠.....『宗湛日記』

(3) 構造・細部意匠...類例建物（現存遺構・建築図面資料等）

→既往の復元根拠を再考し、新知見と合わせて最新復元案を検討

○検討課題

(1) 洞庫を備えた床構え（『宗湛日記』より）

(2) 梁行の短い四畳半（遺構より）

(3) 出入口が1カ所（遺構より）

→類例が存在しない部分をどのように解釈するか

→類例だけに頼るのではなく、想定する必要性を踏まえ検討

## 2. 課題に対する考察

### 2-1. 洞庫を備えた床構え

#### 飾られた茶道具から床の間の寸法を考える



上山里丸茶室復元内観図  
床の間・洞庫

○横物の掛軸

縦：3尺5寸～4尺程度

(1,060mm～1,212mm)

○花生：8寸5分(258mm)

○敷板：2分(61mm)

○床の高さ

**4尺8寸(145cm)程度**

○洞庫の高さ

**1尺5寸 (45cm)**

(松花堂茶室の洞庫)

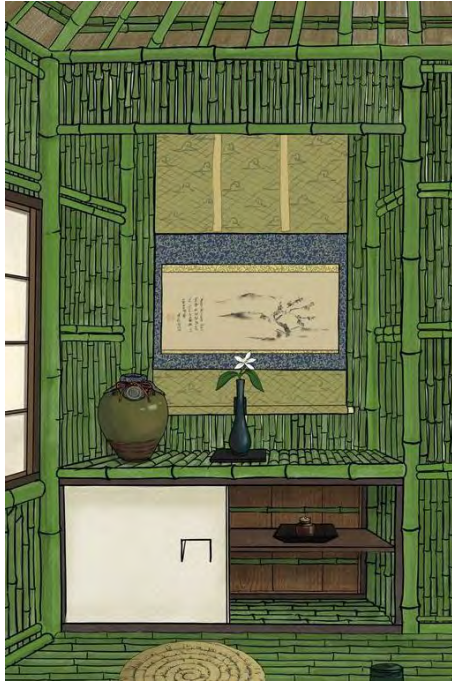
玉潤 瀟湘八景図の寸法

		総(本紙+表具)				本紙			
		縦		横		縦		横	
		cm	尺	cm	尺	cm	尺	cm	尺
宗湛日記	瀟湘夜雨					45.5	1.50	81.8	2.70
	煙寺晚鐘					34.8	1.15	87.9	2.90
	平沙落雁					34.8	1.15	87.9	2.90
	洞庭秋月	131.2	4.33	99.99	3.30	34.8	1.15	87.9	2.90
現存 (所蔵館実測値)	遠浦帰帆	108.0	3.56	84.3	2.78	30.6	1.01	77.0	2.54
	山市晴嵐	121.5	4.01	91.8	3.03	33.0	1.09	83.3	2.75
	洞庭秋月	118.1	3.90	94.9	3.13	33.3	1.10	85.5	2.82
摸本 (狩野家実測値)	遠浦帰帆	107.6	3.550	85.75	2.83	31.4	1.035	78.2	2.58
	山市晴嵐	122.6	4.045	93.32	3.08	34.2	1.130	84.2	2.78

## 2. 課題に対する考察

### 2-1. 洞庫を備えた床構え

#### 茶室と持仏堂（仏間）を兼ねた事例



上山里丸茶室復元内観図  
床の間・洞庫



松花堂茶室(京都府指定)  
内観 仏間



九年庵(国名勝)仏間

#### 亭主床

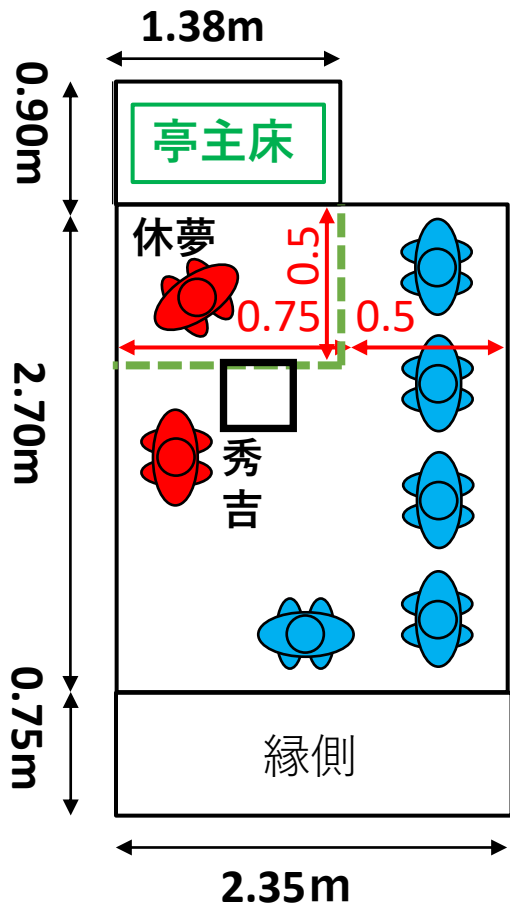
- 『石州三百ヶ条』  
...独座して茶を楽しむ
- 『南方録 覚書』  
...仏に茶を点て備える

→秀吉の私的な茶室であり、母大政所（天正20年（1592）7月没）を弔う持仏堂の役割も兼ねていた？

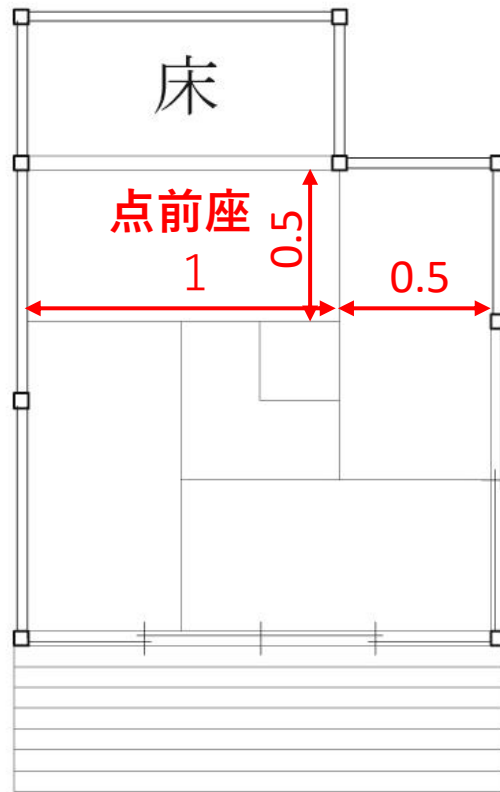
## 2. 課題に対する考察

### 2-2. 梁行の短い四畳半

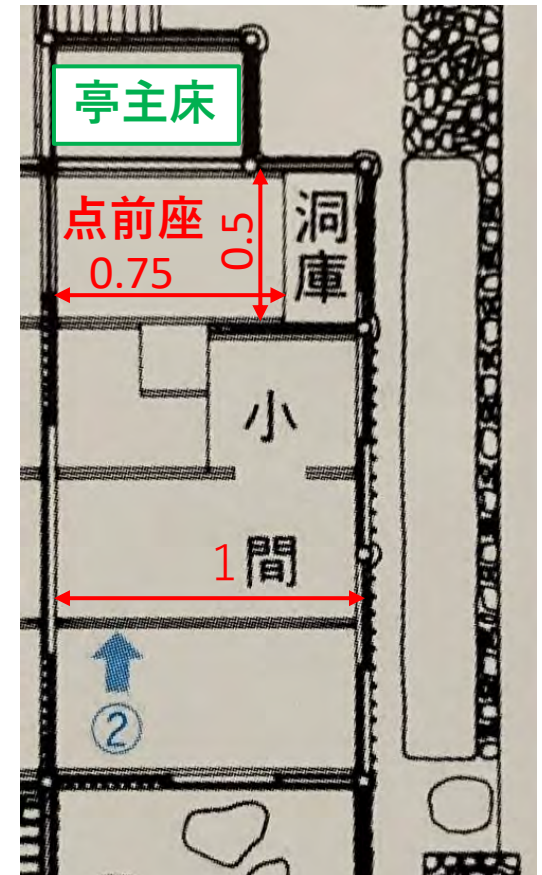
- 亭主床の点前座は台目という決まりか
- 点前座の台目を含み四畳半にみせようとしたため梁行が短い平面となったか
- 点前座を台目畳とした場合、畳の割付が不揃いとなるため畳敷とは考え難い



上山里丸茶室 復元平面図



東大寺四聖坊茶室  
平面図



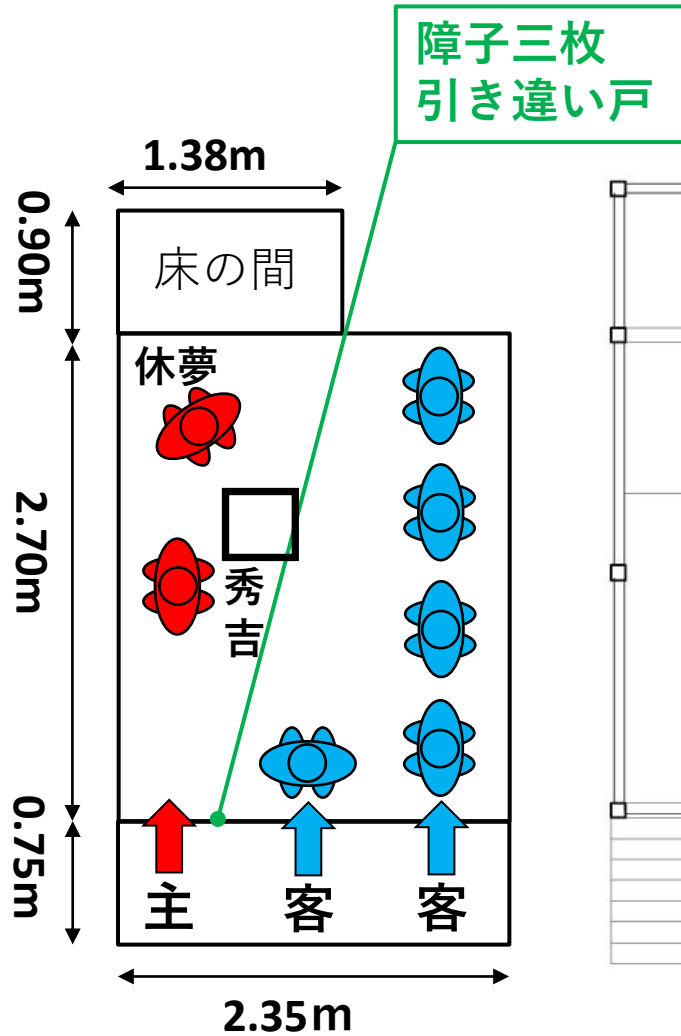
元庵 平面図

出典：『有楽苑』国宝茶室如庵（2022）

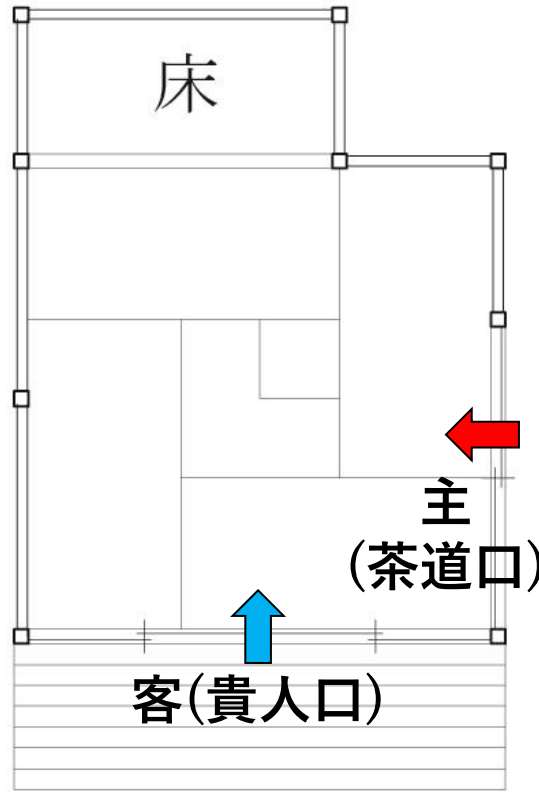
## 2. 課題に対する考察

### 2-3. 出入口が1カ所

- 出入口が1カ所でも3枚の引き違い戸で主・客の動線を確保
- 沓脱石を設置しないことで3枚のどこからでも入室可能



上山里丸茶室 復元平面図



東大寺四聖坊茶室  
平面図



高台寺 鬼瓦席 貴人口

# 3. 上山里丸茶室の復元

## 屋根



松花堂茶室(京都府指定)



高台寺傘亭(国重文)

## 軸部



馬場楠地区お飯屋 提供:馬場楠地区



## 壁



『醍醐寺花見図屏風』 (国立民俗博物館蔵)  
出典:肥前名護屋、煌めく(図録)

## 建具



高台寺鬼瓦席



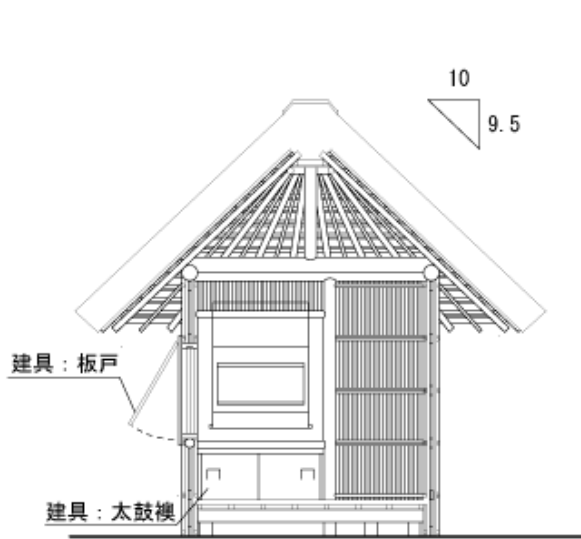
高台寺傘亭(国重文)

## 床・縁

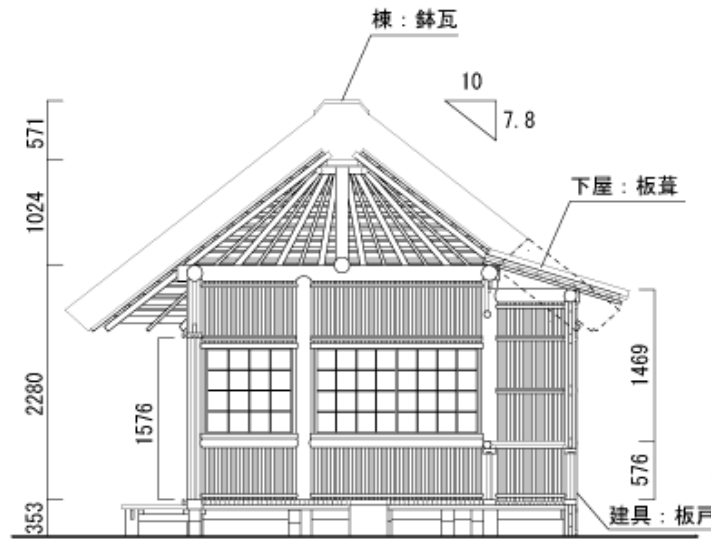


慕帰繪々詞 (慕帰絵詞摸本)  
出典:国立国会図書館  
デジタルコレクション

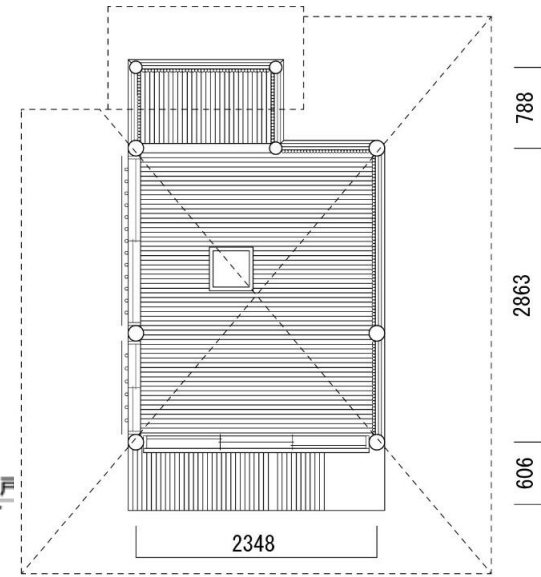
# 3. 上山里丸茶室の復元



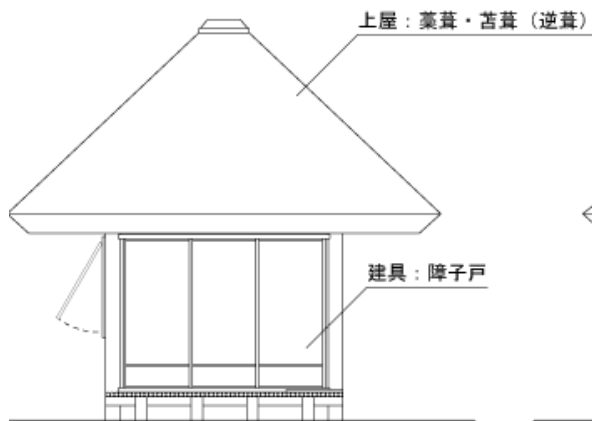
梁行断面図



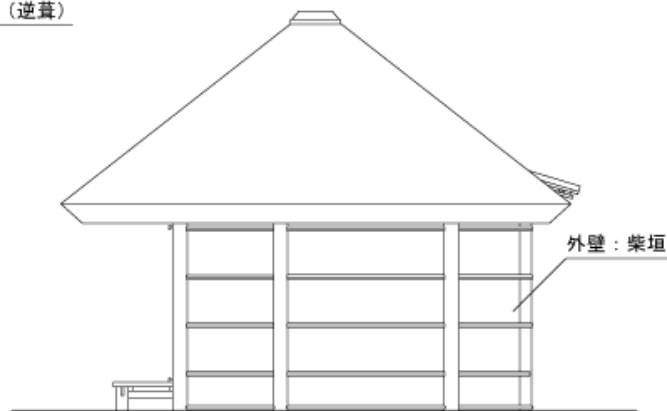
桁行断面図



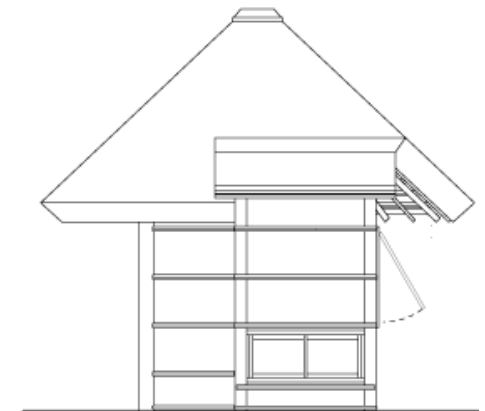
平面図



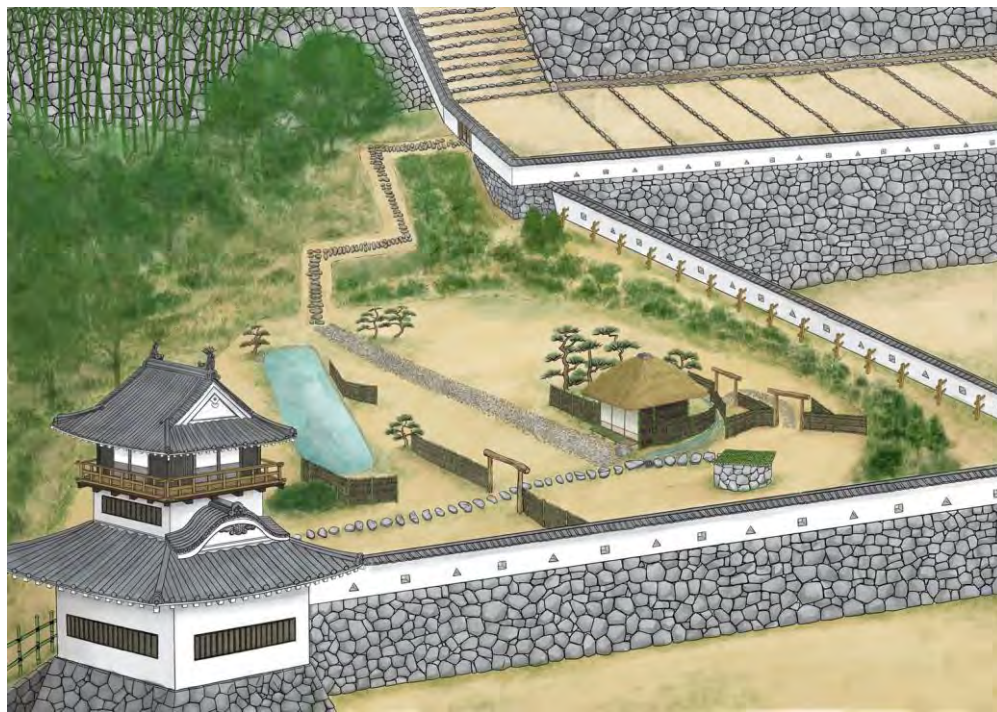
南東面立面図



北東面立面図



北西面立面図



名護屋城上山里丸小曲輪復元図



名護屋城上山里丸草庵茶室復元外観図



名護屋城上山里丸草庵茶室復元内観図



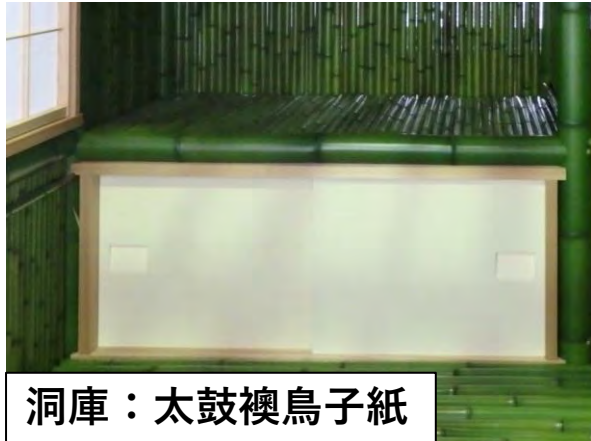
# 4. 施工の状況



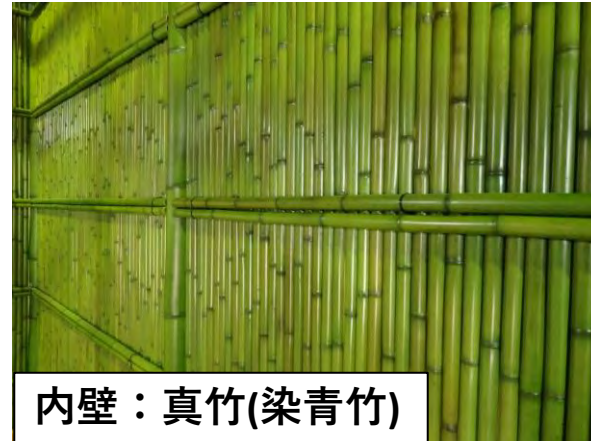
軸部：孟宗竹(染青竹)



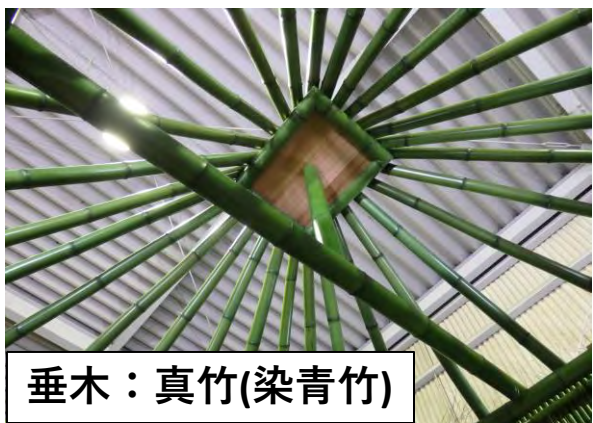
外壁：竹の穂(染青竹)



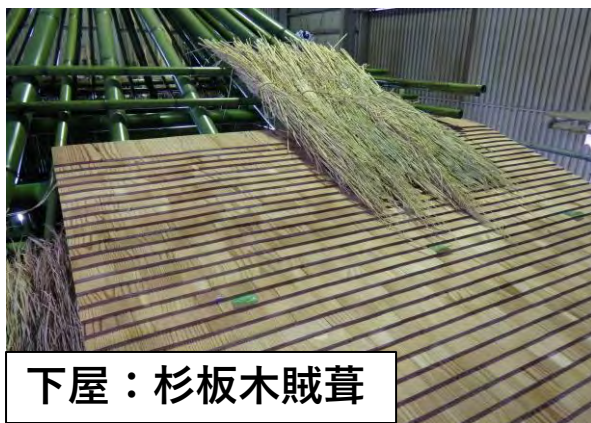
洞庫：太鼓襖烏子紙



内壁：真竹(染青竹)



垂木：真竹(染青竹)



下屋：杉板木賊葺



藁葺・逆葺・苫葺

# 『太古のブランド石材』

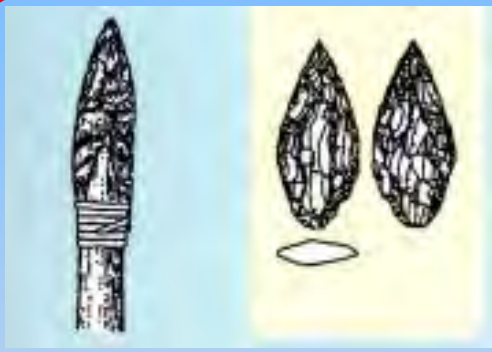
## 伊万里腰岳の黒曜石と 多久鬼の鼻山の安山岩』



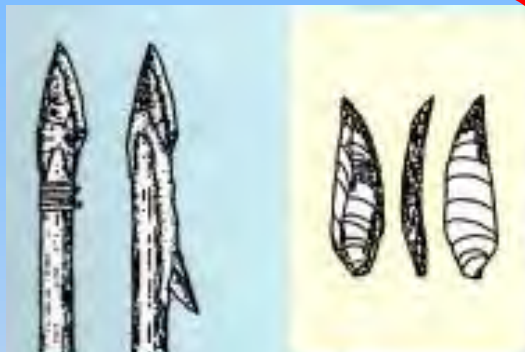
文化財保護・活用室  
越知 睦和

# 「黒曜石と安山岩について」

- 旧石器時代や縄文時代における石器石材として利用されていた。



槍先形尖頭器



ナイフ形石器

～石器に適した石材～  
ガラス質で、打ち割った時に鋭利な刃ができるもの



搔器(スクレイパー)



錐(ドリル)

主な石器石材

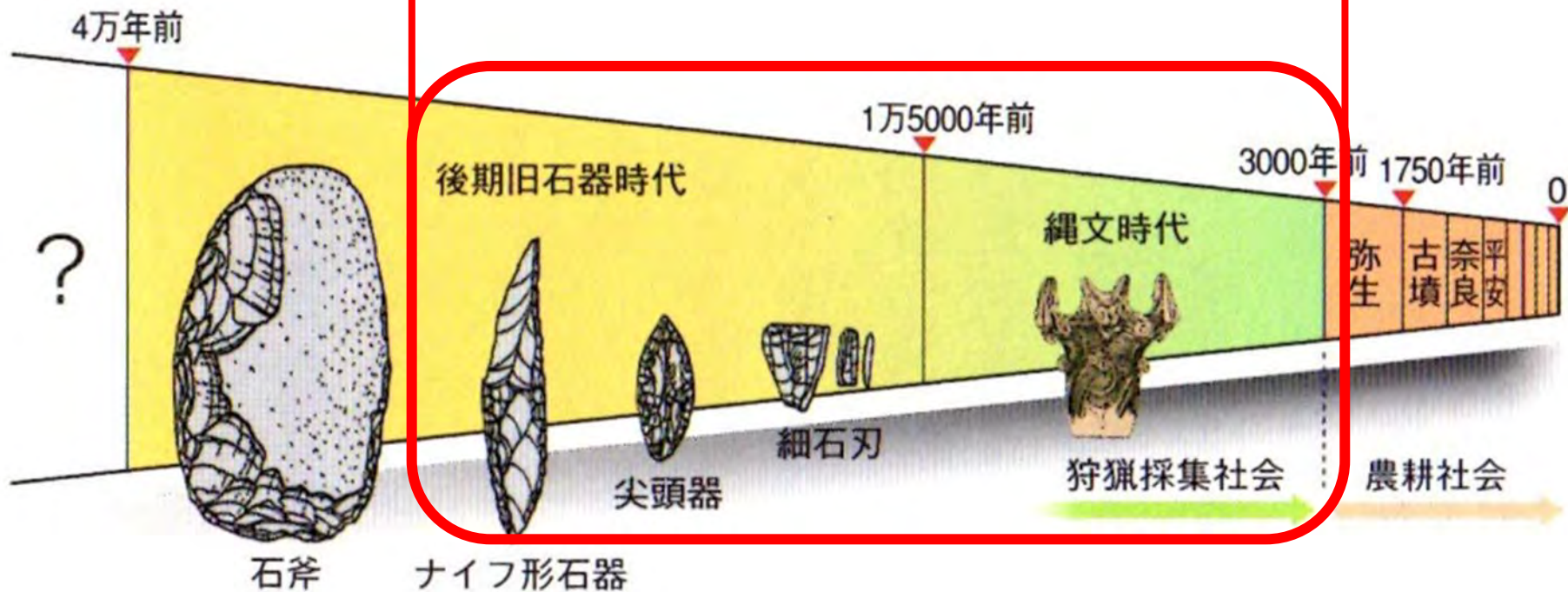
黒曜石 ◎

安山岩 ◎

流紋岩 ○

# 黒曜石・安山岩が利用された時期

約2万7千年間

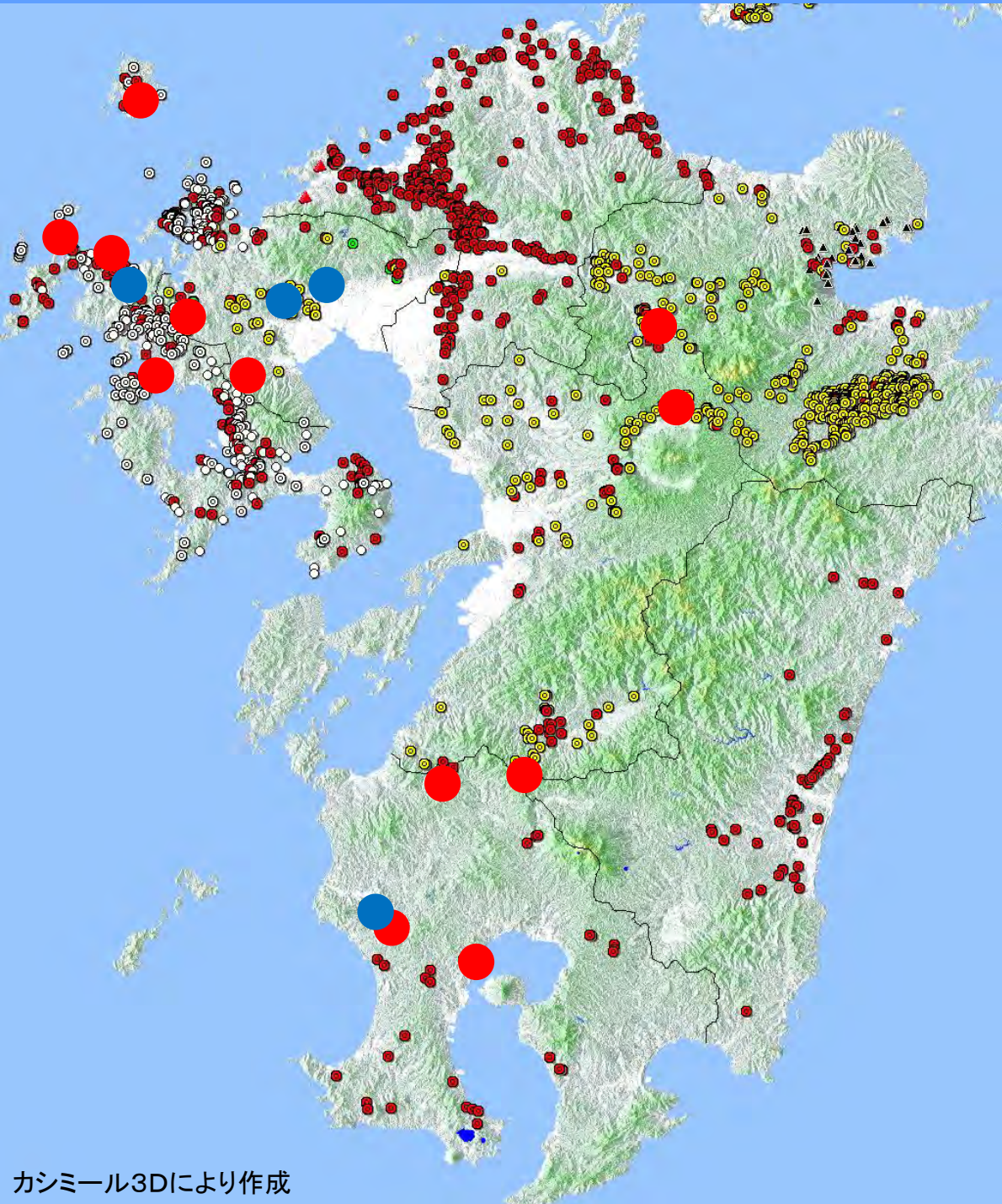


# 旧石器時代の 遺跡分布図

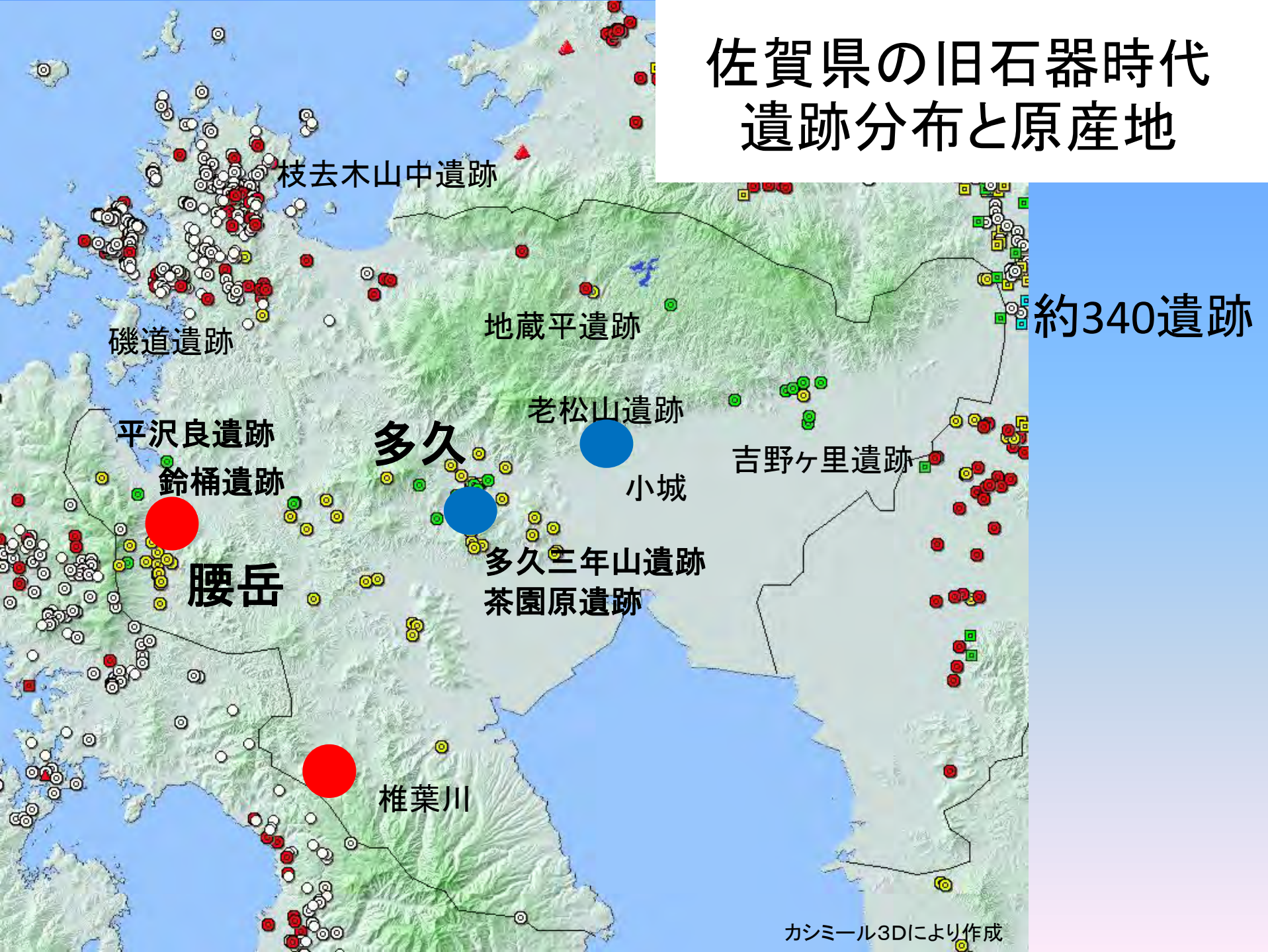
約3,500遺跡

- 黒曜石原産地
- 安山岩原産地

石器に利用される  
石材は限られた  
場所でしか採取で  
きない。



# 佐賀県の旧石器時代遺跡分布と原産地

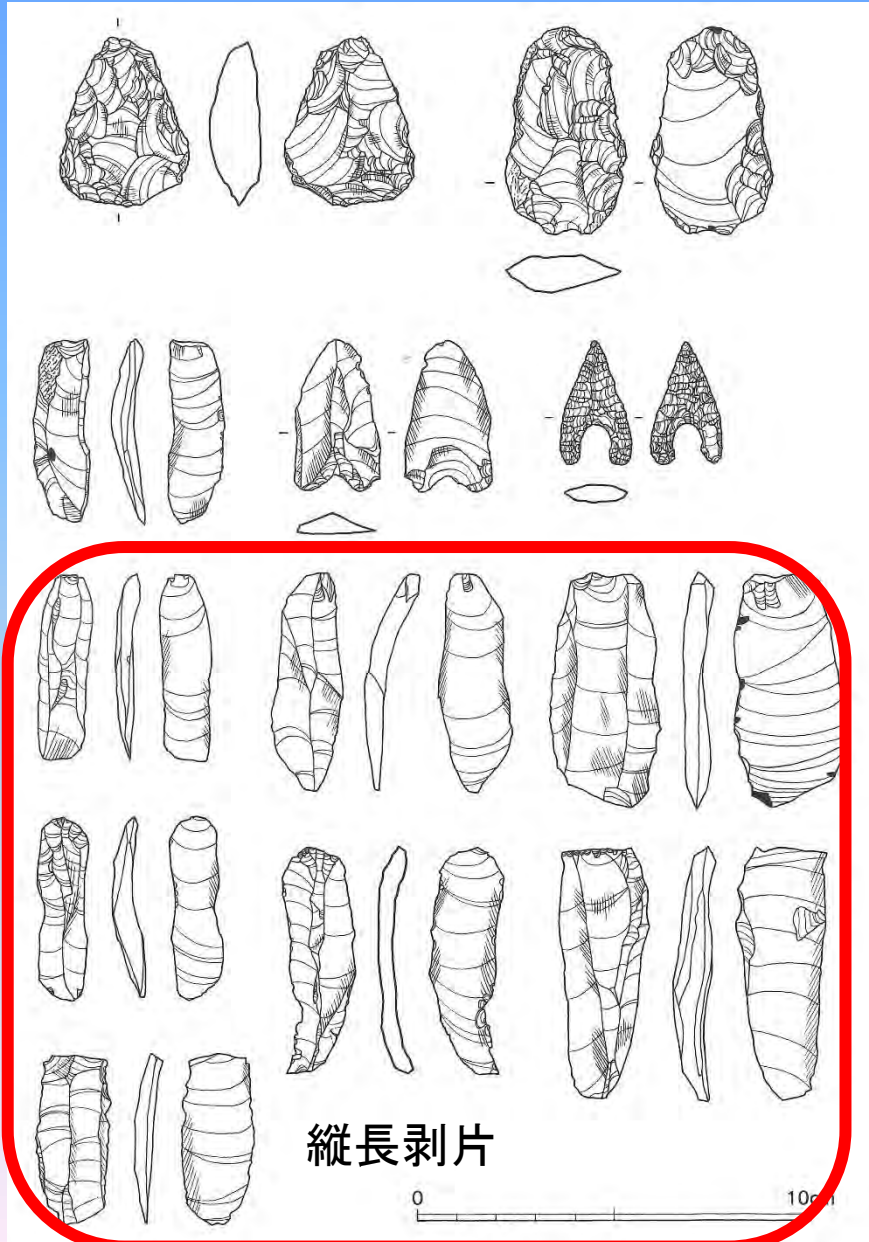


約340遺跡

# 腰岳の黒曜石原石散布状況



# 鈴桶遺跡出土の黒曜石製石器





# 蛍光X線分析によって 判明した腰岳産黒曜石 製石器が出土している 遺跡分布

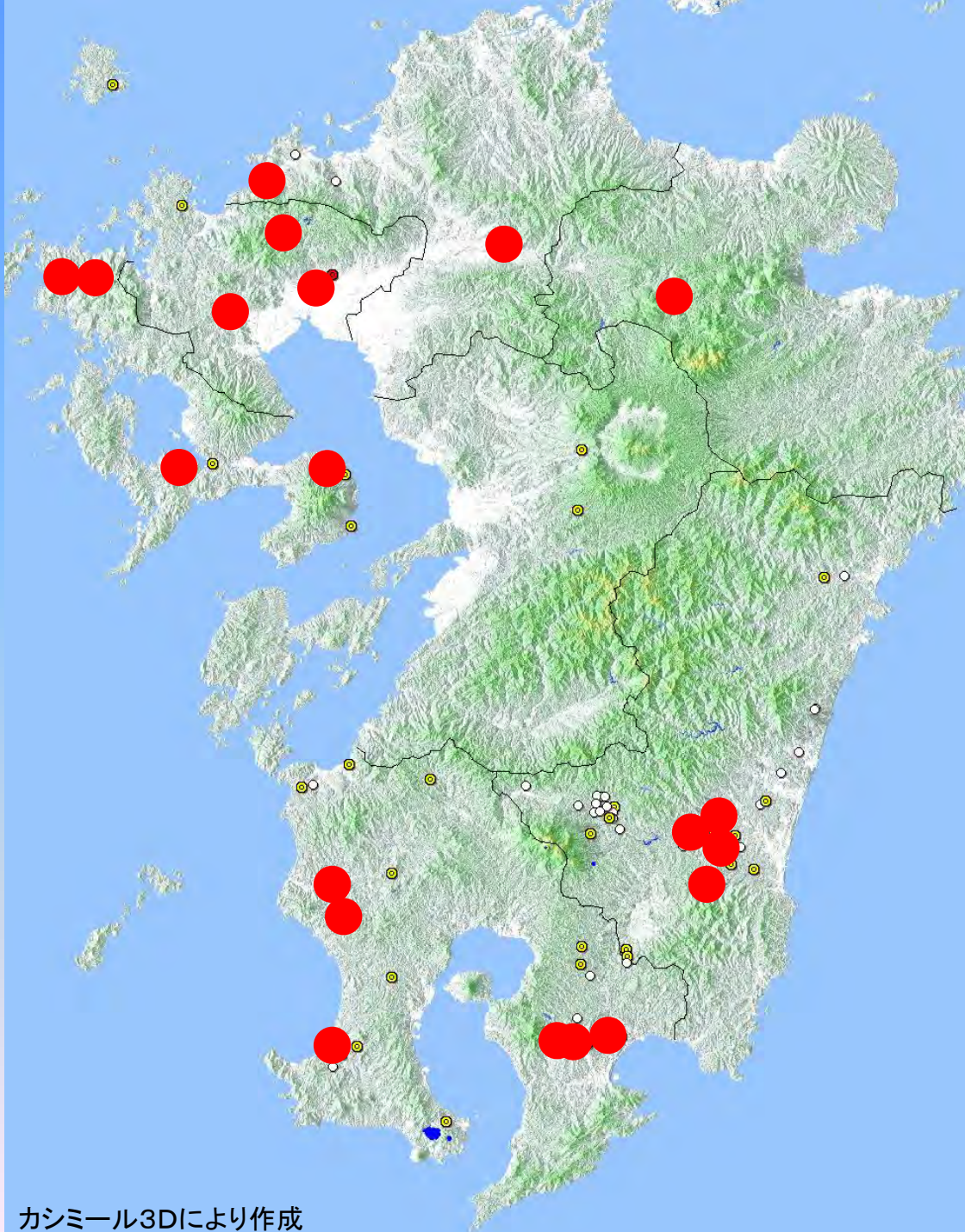


## ・分析事例

149遺跡8,113点中  
腰岳と判定されたもの  
100遺跡1,540点

九州各地に腰岳産黒曜  
石が分布。

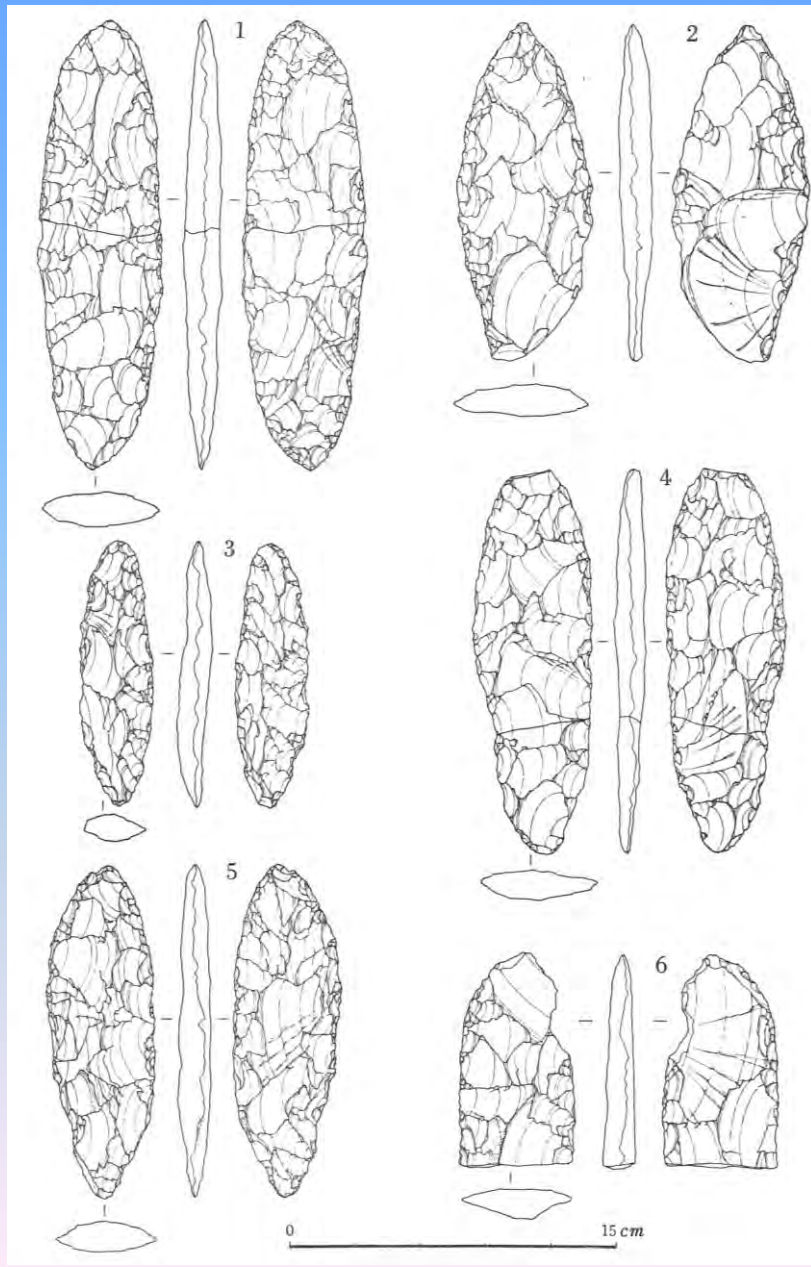
更に、沖縄県や朝鮮半島  
でも確認されている。



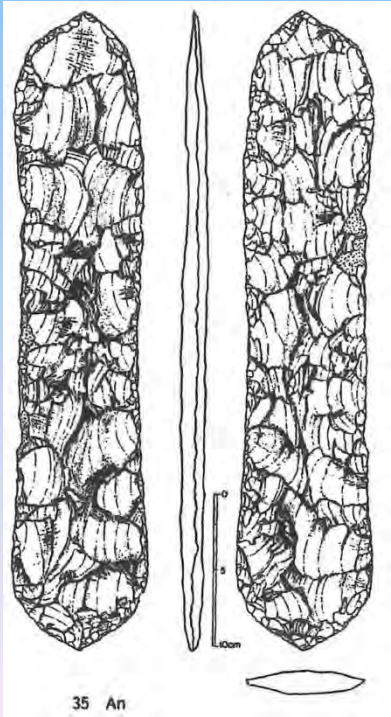
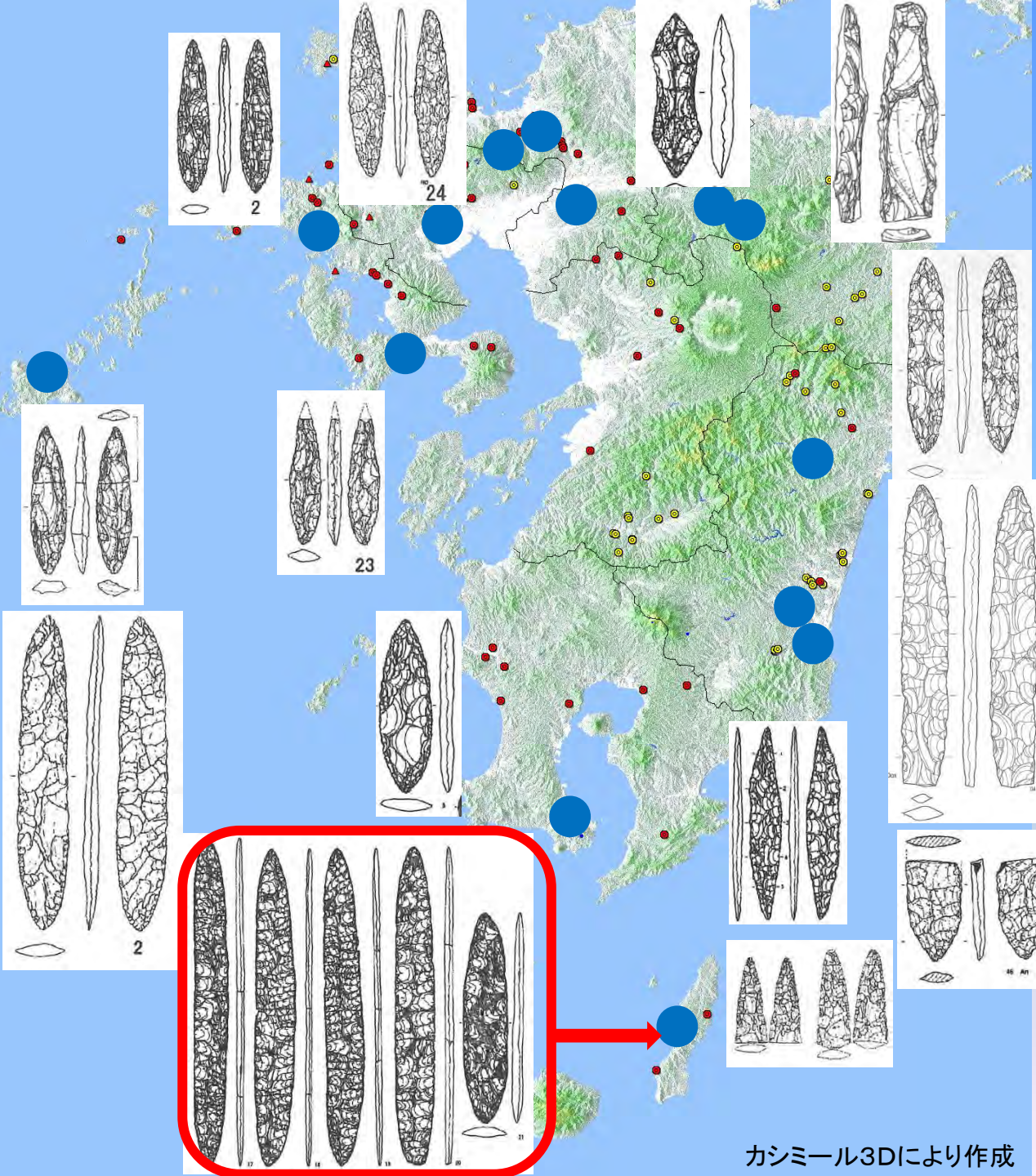
# 安山岩原石の近景

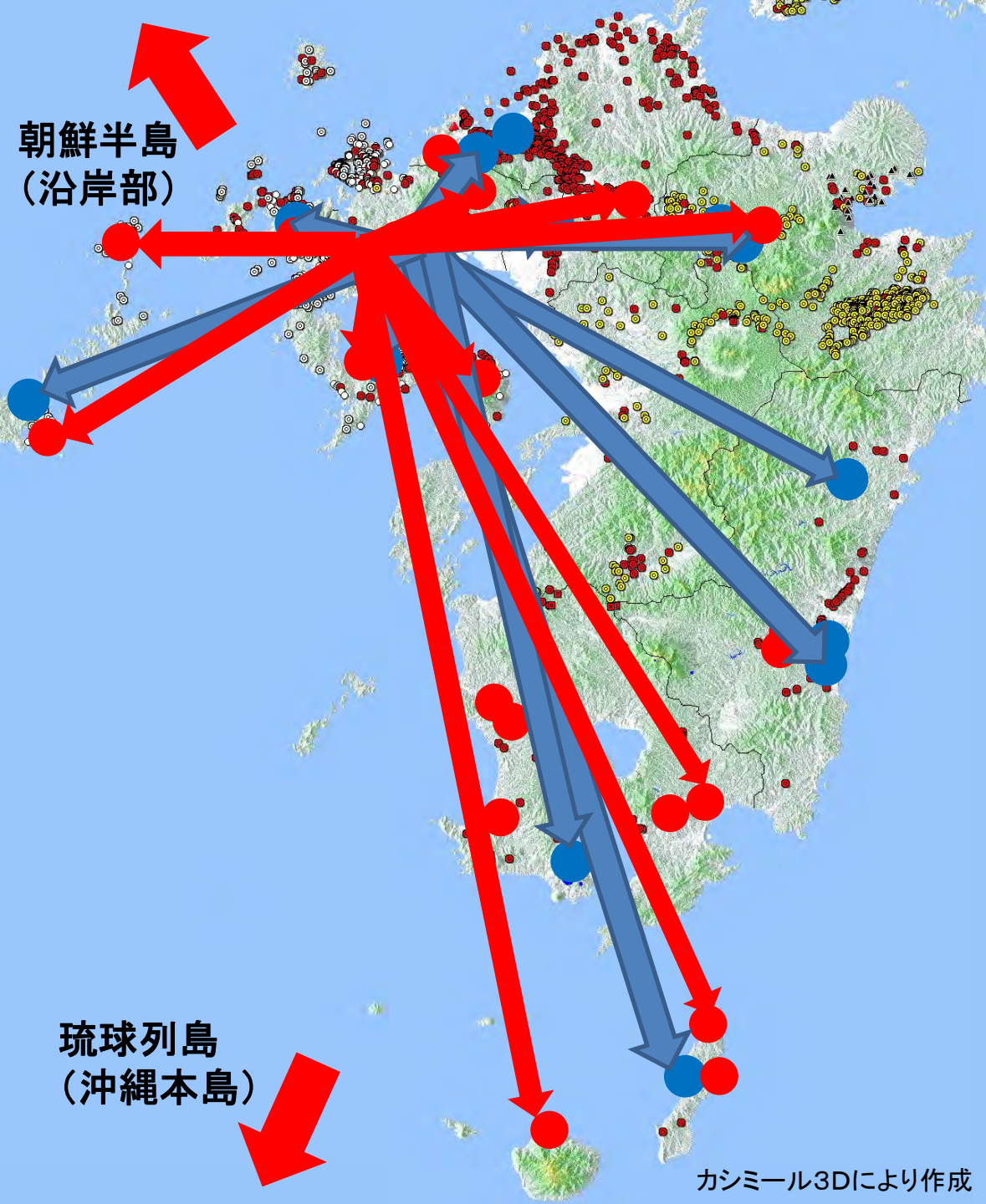


# 茶園原遺跡出土尖頭器



多久の石槍と  
同じ形態の石槍  
が九州各地の遺  
跡で確認されて  
いる。





腰岳の黒曜石や多久鬼の鼻山の安山岩は九州各地に流通し、黒曜石については、縄文時代に沖縄や朝鮮半島まで分布していた。

腰岳や多久以外で取れる石材は、その地域周辺で使用されることが多い。

旧石器時代から縄文時代に至る約2万7千年もの間、九州各地で暮らしていた古代人は佐賀の石を好んで使用していた。

まさに、佐賀の石が原始古代におけるブランド石材であったといえる。